



Live naturally in KYOTO
素

で暮らす京都

「一度は京都に住んでみたい」

千年を超える日本の都ですから、そんなふうに思う人は少なくないでしょう。でも、「観光客が多くて住みにくいんじゃないか」、「独自のしきたりがあったりして敷居が高そう」と二の足を踏んでしまう人もいるかもしれません。本項では京都市在住の方々のお話とともに、「暮らす京都」の魅力を探ります。

©京都市メディア支援センター

まず、これだけは知っておきたい暮らす京都市のこと

自然環境に育まれた立地



京都市は、東山、北山、西山と三方が山に囲まれています。また市内各地に社寺林や庭園、緑地が多く存在しており、人口140万人を超える大都市でありながら、徒歩や自転車で立ち寄れる豊かな自然に恵まれています。日常の中で、ふと心を落ち着け、安らぎを得る場所、気持ちよく散歩できる場所が身近にある環境では、オンとオフを切り替えやすく、充実できることは京都の大きな魅力です。

人と人がつながるまち



「一見さんお断り」など敷居の高い印象を持たれがちな京都ですが、実際の京都は出会いのチャンネルが多いまち。茶道や伝統芸能といった趣味のサロン、カフェや喫茶店、ギャラリーや古書店など、仕事とも家庭とも違う第3の場所「サードプレイス」が多数あります。そして、それぞれがゆるやかなネットワークで繋がり、そこでできた人脈が新たなビジネスにつながることも少なくありません。

充実した子育て・教育環境

保育所等・学童クラブ事業での待機児童ゼロの継続(2023年4月時点)など、子育てしやすい環境が充実！歴史的な文化遺産、博物館、ギャラリーなど、文化芸術が身近に息づく理想的な教育環境です。また、教員数も全国屈指で、生徒一人一人に寄り添いながら全国トップレベルの高い学力水準が実現されています。

教員一人当たりの児童数 東京都区部・政令指定都市21都市中
幼稚園 2位 小学校 3位
中学校 4位 高等学校 1位

(出典)大都市比較統計年表 令和2年版

京都で暮らしたいと思ったら



“京都のどこに住もう？”“京都での子育てってどうだろう？”など、移住の際に気になる情報が詰まったポータルサイト「住むなら京都」。お役立ち情報が詰まったサイトなので、移住が気になったらまずはのぞいてみてください。

京都市移住ポータルサイト
住むなら京都



今回注目するのはこの2区

自然と暮らしが交わる京都 西京区[洛西]



NISHIKYO AREA DATA

- 人口：149,837人(市内の約10%の人が住んでいます)
- 交通：阪急京都線・嵐山線/JR京都線
- 名所：桂離宮/松尾大社/大原野神社/洛西竹林公園

京都市の西南部に位置し、京都の西の玄関口としての役割を担う西京区。その西南部に位置する洛西地域は、西山山麓には紫式部ゆかりの大原野神社、桂昌院ゆかりの善峯寺など、歴史ある寺社が数多く存在します。地域の中心部には洛西ニュータウンや桂坂の大規模で計画的な住宅街、また中央部を東西に走る旧山陰街道沿いにはかつて宿場町として栄えた大枝、さらに西部には西山連峰の美しい山並みと大原野の田園風景が広がります。京都市中心部や大阪方面の鉄道駅へのアクセスも良く、ニュータウンの整った街並みと、少し足を延ばすだけで京都市内とは思えないのどかで自然豊かな田園風景が広がるのも洛西地域の魅力です。

新鮮な京野菜が育つまち

いにしへの時代は貴族が狩りや花見などの行楽を楽しむ地であり、豊かな自然が広がる大原野。現在は、農業が盛んなエリアです。農家さんが丹精を込めた野菜は「マルシェ大原野」などの直売所でも販売され、新鮮な野菜を手に入れることができます。



マルシェ大原野の風景

生まれ変わる！

ニュータウンがあるまち

京都市初の大規模住宅団地である洛西ニュータウン。子育て世帯にも安心な整備された街並みとマルシェなど豊富な催しが魅力。緑豊かな住環境を活かし、より便利で魅力的なまちに向けた「洛西“SAIKO”プロジェクト」も進んでいます。



洛西中央街

のびのびと子育てするまち

子どもたちの好奇心を刺激してくれる豊かな自然と特色ある公園にあふれた洛西地域。自然環境に恵まれているだけでなく、子育てをサポートしてくれる児童館やついで広場、コミュニティも充実しているため、孤立せず安心して子育てができます。



Image photo

歴史を感じる、もう一つの京都 伏見区



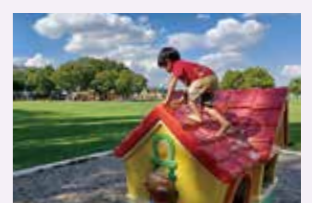
FUSHIMI AREA DATA

- 人口：277,858人(市内の約19%の人が住んでいます)
- 交通：JR奈良線/近鉄京都線/京阪本線・宇治線 市営地下鉄烏丸線・東西線
- 名所：酒蔵、伏見城跡、伏見港、城南宮、伏見稲荷大社、醍醐寺

京都市南部に位置し、11区内でも最大の人口を擁する伏見区。宇治川や桂川などの水源に恵まれ、古くは貴族の別荘地などとして知られる場所でしたが、晩年の豊臣秀吉が伏見城を築城したことで城下町として発展します。江戸時代も幕府の政治や水運の拠点として栄え、昭和に入り京都市に編入されるまで、独自の文化を育んできました。そんな歴史から生まれたアイデンティティは今もまちの至るところに健在。城下町の基軸であった大手筋は商店街として賑わい、豊かな「伏水」を生かした酒造業は全国に知られます。交通の要所でもあったため、京都都心部や大阪方面へのアクセスがいいのも大きな魅力です。

公園の数が多いまち

区内には277箇所の公園があり、人口あたりの公園数は市内で第1位！徒歩圏内にあり日常的に使える公園から、グラウンドや体育館を備えた大規模な運動公園や広場まで多彩に揃い、子どもから大人まで憩いの時間を楽しむことができます。



名水のある酒造のまち

「伏水」と呼ばれるほど良質な地下水に恵まれた伏見は、全国屈指の酒どころ。その歴史は弥生時代に始まり、伏見城下の賑わいの中で一気に発展したといわれます。現在も伝統を受け継ぐ多数の蔵元があり、酒蔵巡りが人気です。



月桂冠大倉記念館井戸

商店街がにぎわうまち

100年の歴史を持つ伏見大手筋商店街や納屋町商店街をはじめ、幕末の史跡にも近い竜馬通り商店街など多くの商店街がある伏見区。幅広いジャンルの店舗、飲食店が揃うだけでなく、各商店街で多彩なイベントも開催され、暮らしに深く根付いています。



伏見大手筋商店街

西京区・洛西地域在住のみなさんにお聞きしました。



Mさん

在住歴:6年 / 出身地:和歌山

京都出身の夫と結婚し、洛西ニュータウンでの暮らしをスタート。夫は大阪勤務、普段は車が電動自転車での移動が多いそう。

Oさん

在住歴:26年 / 出身地:長野県

結婚を機に京都市内で住まい探しをし、洛西ニュータウンへ。洛西エリアの2箇所ずつの広場を運営されています。

Iさん

在住歴:20年以上 / 出身地:西京区

結婚後は夫の出身地である長岡京市に住まいを購入。祖母の農園で楽しんでいた家庭菜園が高じ、姉妹で「the Veggie」を開業。

Kさん

在住歴:20年以上 / 出身地:西京区

農園のある大原野に在住。収穫した野菜は農園での直売のほか、市内の飲食店にも卸している。夏は収穫体験も人気。

「暮らし街として開発されたニュータウンに加え、のどかな山間の住宅地が広がる西京区・洛西地域。住民の方々にこのエリアを選んだ理由を尋ねると、やはり子育て環境を重視したというケースがとて多いようです。

子育てするならここだ!

「子育てするなら、自然溢れるゆったりした環境でと決めていました。かといって仕事場へのアクセスがあまりに不便なところは困るなと思いついて探していたところ、直感で「ここだ!」と思えたのが洛西ニュータウンでした」

そう語るのは、在住歴26年・洛西地域で2人のお子さんを育て上げられたOさん。現在は洛西の親子のための居場所「つどいの広場 ま〜ぶりんぐ」の運営に携わっておられますが、広場開設のきっかけは、ご自身の子育て体験だったといいます。

「ワンオペ育児で大変だったのですが、ちょうど風邪をひいてしまった時にその様子を見ていた近所のおばあちゃんが夕飯のおかずを持ってきてくれたことがあって本当にありがたかったです。一人で奮闘していたつもりが、**そっと見守ってくれている方がたくさんいる街なんだと、地域の力を実感しました**」

結婚を機に洛西に暮らし始めたというMさんは、京都に暮らすことに不安があったそう。

「大阪で就職して、結婚を機に京都に来たので、まったく馴染みのない土地で、しかも京都は数居が高いという噂だけ知っている感じだったので、不安でいっぱいでした」

しかし、実際に暮らして子育てをしてみるとそんな印象は変わったそうです。

子育てを通じて気づく魅力。

「特に子どもができてからは「ま〜ぶりんぐ」のように子育ての不安を相談できる場所があったり、大型の商業施設があって大概のことは自転車圏で足りるのも便利です。**暮らしている方も親切で、子育てを通じてこの街の良さに気づいたという感じですね。緑も多くて、公園もたくさんあって、その日の気分で遊び場所を決められるような環境も気に入っています**」

「この辺りは、**私たちが子どもの頃と変わらない自然がまだ残っているところが魅力だと思います**」

そう話すのは大原野で農園を営むIさん・Kさん姉妹。減農薬にこだわり、山の水を使った露地栽培の野菜を育てています。

「最近子どもが外で遊ぶことも減っていると思いますが、それでも**こういう環境にいると四季の変化や野菜の旬をよく知っているなど感じる**ことが多く、**そうしたのびのびした環境を求めるファミリーにはぴったりの場所だと思います**」

クリエイターにもおすすめ。

野菜作りを通じて様々なイベントにも参加されている中で、近年は洛西地域でものづくりをする方が増えたのを感じるといいます。

「染め物職人や陶芸家など芸術関係の方がアトリエを構えるケースもよく見かけますし、主婦の方々がアクセサリや雑貨を手作りして販売したり、**クリエイティブな活動をされる方が増えているのは嬉しいですね**」

「**市中心部にもすぐに出られるのに、のびやかな雰囲気があるのが洛西地域。子育てだけでなく、ONとOFFを切り替えて、ご自身でもなにか始めてみたいという方にもおすすめの場所だと思います**」

商業施設「ラクセーナ」が12月にリニューアルオープンし、2025年4月には小中一貫教育校「洛西陵小中学校」が開校予定。これからますます楽しみな街に進化していきそうです。

洛西地域活性化の取り組みを知るなら
[洛西「SAIKO(さいこ)」プロジェクト]



洛西地域の子育て情報を知るなら
[住んで子育て! 洛西MAP]



伏見区在住のみなさんにお聞きしました。



Kさん

在住歴:28年 / 出身地:三重県

伏見区のコミュニティFMに就職したのをきっかけに伏見区民に。結婚後も家族で住み続けるほど愛着を感じている。

Oさん

在住歴:44年 / 出身地:伏見区

伏見大手筋商店街で地酒を販売する酒店の4代目店主。進学と就職で伏見を離れるも、Uターン後に改めて伏見の魅力に気づく。

Eさん

在住歴:5年 / 出身地:福岡県

夫の転職に伴い移住。職住近接を重視し伏見区内一択だったそう。おいしい飲食店や酒蔵を求めて地域探索するのが趣味。

Nさん

在住歴:17年 / 出身地:大阪府

結婚を機に京都市内に住む祖父から薦められ伏見へ。地域の子育て広場を開設し、管理人を務める。

「都市内で最も多くの方が暮らす行政区である伏見は、実際に暮らしの舞台としてどのような魅力があるのでしょうか。約5年前に伏見に移住してきたEさんは、当初「京都に住む」ことに対して期待感と同時に不安もあったと振り返ります。

京都初心者にも入りやすい。

「やっぱり京都といえば数居が高いイメージが先行して、馴染めるか不安でした。でも伏見は企業の数も多いからか、私たちが家族のように市外から移住してきた方も珍しくなく、**皆さん気さくで話しやすい方ばかりで、すぐに友達や知り合いができました**」

この京都独特のイメージについて伺うと、「伏見はちょっと違う」と皆さんが口を揃えます。城下町・門前町・港町として栄えてきた歴史的背景もあって、現在でも京都に住んでいるというよりは「伏見に住んでいる」という感覚が強い、と在住歴28年のKさん。

「秀吉の時代に整備された道がそのまま残っていたり、例えば伏見港公園をジョギングするだけでも、**清々しい中に城下町の歴史を感じます。商業、金融、医療などに必要な施設が揃っているので、わざわざ都心に出なくても、あらゆる要素が充実したまちです**」

「伏見の人は京都駅とか四条の辺りに行く時は『ちょっと京都まで行ってくる』って言うんです。それくらい伏見の中で**仕事も生活も必要な物が揃ってしまう**。もともと京都市になる前は伏見市だったくらい独自の生活圏や歴史があるんですよ」

商店街がある安心感。

そんな利便性と賑わいの中心となっているのが、100年の歴史を持つ「伏見大手筋商店街」。

「伏見は徳川家康が初めて銀座を置いた場所ですから、古くから金融機関が多く交通の便もよいという相乗効果で、**今もいくつもの商店街が残っています。最近では老舗と新しい店が入り混じって、市外から入ってきた人も街づくりに参加してくれて、新しい視点が入ることさらに活性化しているのを感じます**」

商店街は地域コミュニティを育む拠点としても機能しているようで、

「**引越越しを決めた時も、商店街があるのがわかって、ちょっと親しみが湧いたというか安心感がありました。個人で経営されているお店も多いので、自然と街の人とも挨拶を交わすようになったりつながりを感じられます**」

「ちょっと挨拶を交わしているだけなのに、つい長話になったりして『私も伏見の人になったんだな』って思ったのを覚えています」

子どもたちを見守る仕組み。

つながりを築くきっかけのひとつは、やはり子育て。地域の中に子どもを連れて気軽に集まれる場所があるので、自然と知り合いが増えていくのだとか。

「歴史文化や豊かな自然に加えて、**環境問題を学べる『さすてな京都』などの施設あり、子育てにも良い環境だと思います。最近では一部の地域で民学共同プロジェクトのこども食堂も始動し、街全体で子どもたちを見守る仕組みがあります**」

「子どもたちが会員証を持って商店街のごはん屋さんで食べてきたりするんですけど、世の中を見ると、**最近では地域の大人と子どもが触れ合うことって少ないじゃないですか。でもそういう街の人と子どもが触れ合う機会があるのはすごく良いことだと思うんですね**」

独自の歴史を歩んできたがゆえの、他にはない文化や特長が溢れる伏見区。その魅力の深さは、暮らす方の多くが街に愛着を持っているという事実からも明らかだといえるでしょう。

伏見区の暮らしの魅力をもっと知るなら
[住むまち伏見]



お問い合わせ

京都市 総合企画局総合政策室人口戦略担当
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
TEL:075-222-3037

